

中国の羽生結弦のファンの文化実践について

スポーツ文化研究領域

5019A047-5 張雯 ZHANGWEN

研究指導教員:リー・トンプソン 教授

緒言

近年、日本の男子フィギュアスケート羽生結弦選手は日本で絶大な人気を誇っている。日本のみならず「世界のハニュー」として活躍している羽生選手は世界範囲でも数多くのファンがいる。2010 年以来、反日感情が強い中国でも、羽生選手が大人気である。

スポーツ、特に五輪やワールドカップといった国際的な競技イベントはナショナリズムを喚起することが多い。なぜ日本人の羽生選手は、日中関係が好調とは言えない 2010 年代に、中国において膨大な数のファンを獲得できたのか。また中国ファンたちはこのような社会背景においていかなる文化実践を行ったのか。本研究は、羽生選手の中国ファンの文化実践を明らかにしたい。

課題および方法

本研究の目的は、中国の羽生ファンの文化実践を明らかにした上で、ファンのアイデンティティを確認することである。そのために、三つのリサーチクエスチョンを設定する。

1. 中国ファンの日常生活においていかなる文化実践を行っているのか。
2. 羽生に関することにとどまらず、日本について積極的な文化実践を行っているかどうか。
3. 文化実践を通じてファン自分のアイデンティティにどのような影響を与えたのか。

これらのリサーチクエスチョンを解明するために、質的アプローチにより羽生結弦の中国ファンの文化実践を考察する。そのため、日常的な生活の文脈やその生活実践が再現される半構造化インタビューを用いた。

2020 年 9 月から 11 月にかけて羽生結弦の 16 名の中国ファンを対象に行った。インタビューに用いられた主な質問内容を、以下の表でまとめた。

質問項目	詳細項目	具体内容
羽生選手について	状況	時期・きっかけ 好きな理由、関連エピソード
	フィギュアスケートに関する	昔の関心度、ルールの理解度、中国の選手好感度
	メディア利用	種類・頻度・時間
	消費活動	グッズ、アドバイザー商品
	家庭・社交生活	家族の態度、友人の反応
	観戦活動	印象残ったエピソード、日本ファンとの交流、観戦体験
日本について	日本・日本人のイメージ	イメージ、関心度、好感度、旅行経験、日本語勉強意欲
	ナショナリズムの考え	日本との関係、政治関係
	中国について	満足度、国民意識
アイデンティティ	自身について	生活への満足度、未来への期待・不安

研究結果

まず、「リサーチクエスチョン 1」においては、中国ファンたちの生活の諸方面においての文化実践を解明した。

一つ目は、中国ファンたちは時代の文脈で、羽生と出会う点である。元々スポーツに関心を払わないファンはテレビ放送または SNS を通じて、初めてマイナースポーツのフィギュアスケートと接

触し、羽生の演技に魅了された。

二つ目は、ファンはインターネットを通じて、積極的に羽生のコンテンツを利用と共有している点である。家庭環境や経済的状况において、20代に集中したファンたちは、インターネット・メディアを通して羽生に関する内容を気軽に消費できた。ファンは積極的に「壁」を乗り越え、コンテンツを再生産と共有にとって、羽生のコンテンツの消費において言語の壁やネットの壁も問題にならない。

三つ目は、ファンは文化実践を家庭・社交生活の中に「私事化」する点である。ファンたちは日中関係による国内世論の配慮で、羽生のコンテンツを含めて日本に関する文化実践を内在化・個人化し、「私事化」する傾向を見せていた。ファンたちの「私事化」は、身近で密接な関係にある両親（特に母親）、友人の間で行われていた。

四つ目は、合理的な消費活動を行う点である。グッズ消費には、実用性がある商品を購入する傾向がある。グッズだけでなく、羽生をアンバサダーとして起用する会社の商品も金銭の余裕があるファンの狙いである。また、ファンは限られた範囲で自発的に資金を寄せ集めて、応援活動を組織する。

五つ目は、ファンはフィギュアスケートの複雑なルールや採点方法への理解度が高い点である。現場まで観戦し行くファンは、ルールへの理解はより高い。ファンが自発的にルールを勉強するだけではなく、国際スケート連盟（ISU）によるルール改正はファンにルールを理解させた。ファンはルールを理解することにとどまらず、自分もアイススケートをやり始めた。

ファンの文化実践は羽生のことにとどまらず、日本・日本文化へ拡張された。このような文化実践を通じて、自分のアイデンティティに影響を与えた。この点においては、「リサーチクエスチョン2」と「リサーチクエスチョン3」を解明した。

まず、ファンは日本文化を受け入れやすい背景

を分析した。東アジア地域において近接な文化の日本文化はファンたちにとって、親しんだ異文化として受け入れられている。

次にファンのスポーツ・ナショナリズムへの考えを考察した。スポーツ・ナショナリズムとの関係がないと考えた。歴史について日本側は過去の事実を承認すべき、日中の平和関係に進んでいってとファンは主張した。

そしては日本に関するニュースの関心、日本への旅行興味、日本語勉強意欲、今後のキャリアプランの四方面から、中国ファンの日本への関心は全面的に高まる点を論じた。ファンは情報面の収集にとどまらず、実際的な行動に移した。

また試合現場で中国ファンと日本ファンは実際の交流からファンの思いを分析した。ファンは日本への了解が増えつつ、良い面と悪い面の両方から日本に関することを接して、より全面的で客観的に日本・日本文化を理解した。

最後はファンのアイデンティティの変化を検知し、「リサーチクエスチョン3」を討論した。ファンたちは羽生を好きになるから、自分自身には良い変化が起こった。中国の公式メディアは羽生選手に高い評価を与えたことにより、ファンたちのファンとしてのアイデンティティを強化した。世界各地での観戦活動を通じて、中国ファンコミュニティとの繋がりがより強く、中国人としてのアイデンティティを一層強化した。

本研究はファンの語りの分析を通じて、三つのリサーチクエスチョンを解答することができた。中国のファンたちは、羽生のことを生活の諸方面から能動的な文化実践を行った。さらに日本・日本文化への関心が喚起され、積極的な文化実践を行った。日本への了解を増え、自身の対照反省もあった。一連の文化実践を通じて、ファンとしてのアイデンティティや中国人としてのアイデンティティを強化した。ナショナリズムを超えて、ファンは積極的に異文化を受け入れ、日中の友好を求める実践を行っている